



五所川原の冬をもっと盛り上げたいとの想いで、初めて開催された雪フェスは、主催した五所川原商工会議所青年部やボランティアの高校生の皆さんなど、若い力が中心となって大成功に終わりました。
また、学生提案型事業では、学生の皆さんから色々なご意見をいただき、私もまちづくりに向けて新たな意欲が湧いてきました。

1月18日 学生提案型事業成果報告会

市では、若者ならではの独創性のあるアイデアと、外部からの視点を当市の活性化に生かすことを目的に、今年度からの新たな試みとして学生提案型事業を行っており、1月18日に活動成果の報告会を開催しました。

県内外の3大学から合わせて5団体が参加し、「若者の定住促進施策」、「交流倍増施策」について、当市をフィールドにした調査・研究の成果を発表しました。

未来を担う若い皆さんが真摯に地域課題に取り組んだ結果とあって、どの団体も素晴らしい着想で、私もたくさんの刺激を受けました。

こういった取り組みをきっかけに、五所川原に積極的に関わっていただけるよう、そしてまた、まちづくり活動の輪が広がるよう、次年度以降も開催していきたいと思っています。



1月30日 災害対策図上訓練

市では、大規模氾濫時における要配慮者の避難対策をテーマに、市職員を対象とした図上訓練を実施しました。これは、避難行動に支援を要する方や、避難所での生活に配慮が必要な方への対応について、様々な状況をシミュレーションすることで、浮かび上がった課題を確認し、広く共有することを目的としています。

各地で自然災害による甚大な被害が発生している中、当市では幸い被害を免れています。市街地の大半が浸水想定区域内にあり、大規模な被災経験がない私たちにとっては、水害を想定した訓練を継続的に実施し、災害に対する対応能力を高めていく必要があります。今後も、こうした訓練などを通じ、職員が一丸となって、防災・減災対策の更なる強化に努めてまいります。



2月9日 雪フェス2020

2月9日、当市では初めてのチーム対抗雪合戦「雪フェス2020」が菊ヶ丘運動公園で開催されました。

雪不足により開催が危ぶまれていましたが、実行委員会の開催にける意気込み、そしてこの大会を楽しみにしていた選手の皆さんの思いが通じ、銀世界が広がりました。

雪合戦では、各チームとも軽快な動きで熱戦が繰り広げられたほか、キッズスペースやグルメブースも設けられるなど、会場は大いに賑わい、記念すべき第1回大会は大成功に終わりました。

今後、回を重ねながら、地域に欠かせない冬の風物詩として成長していくことを期待しています。



青森県消防職員意見発表会で優秀賞

2月7日、第43回青森県消防職員意見発表会が弘前市で開催され、五所川原地区消防事務組合の代表として意見発表した五所川原消防署東分署の高橋広太消防士が優秀賞に輝きました。

発表会では、救急現場において、救急隊員の処置や家族の励ましの声かけにより傷病者の意識が回復した経験をもとに、『言葉の投薬』と題し発表しました。

受賞にあたり高橋消防士は「今後も住民の方々に救命講習等で声かけの重要性を伝え『言葉の投薬』の有効性を普及していきたいと思っています。いざという場面で救命講習等を通じて身に付けた勇気と自信、そして言葉の投薬が生かされた時、五所川原市の救命率向上につながることを確信しています。さらに、若年層へも言葉の大切さを伝えていくことにより、いじめ問題の対

策にもなるのではないのでしょうか。私がかねてより思案していた『言葉の投薬』について、伝える機会を与えていただき感謝しています」と喜びを語りました。



優秀賞を受賞した高橋消防士